3　野菜類

農薬取締法上、「とうもろこし」「未成熟とうもろこし（スィートコーン）」は野菜類ではなく穀類に含まれるので注意する。ただし、「ヤングコーン」は野菜類に含まれる。
この項目では「野菜類」の作物群に対する登録内容のみを記載している。個別作物に対する登録内容については当該作物のページを参照すること。

うどんこ病

留意事項

1 きゅうり、すいか、にがうり、かぼちゃ、なす、トマト、ピーマン、いちご、えんどうなど幅広い作物で発生する。ただし、ほとんどのうどんこ病菌は科の異なる野菜の間では伝染しない。
2 高温乾燥時に発生しやすい。
3 施設栽培では一年中発生する。
4 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 密植を避け、通風をよくする。
2 窒素質肥料の過用を避ける。
3 ハウス内では適度のかん水を行い、過乾を避ける。特に温風暖房を行うところでは注意する。
4 被害茎葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

・イオウフロアブル　Ｍ２
【野菜類（除すいか、かぼちゃ、トマト、ミニトマト、ねぎ、わけぎ、あさつき、いちご）　500～1000倍　発病前～発病初期／－】
・エコピタ液剤　－
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なす）　100倍　前日／－】
・カリグリーン　ＮＣ【野菜類（除トマト、ミニトマト）　800～1000倍　前日／－】
・サフオイル乳剤　－【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト）　300倍　前日／－】
・サンクリスタル乳剤　－
【野菜類（除なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎく）　300～600倍　前日／－】

褐斑細菌病

留意事項

1 かぼちゃ、なすなどで発生する。
2 多湿条件で発生しやすい。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

3 かん水や降雨にともなう水滴の飛散によって病原菌が広がる。

防除方法

1 健全な種子や台木および穂木を使用する。
2 密植を避け、通風をよくする。
3 被害茎葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

・コサイド3000 M１【2000倍　－／－】
・コサイドDF M１【1000倍　－／－】
・コサイドボルドー M１【1000倍　－／－】
・Zボルドー M１【野菜類（除キャベツ）　500倍　－／－】

黒腐病

留意事項

1 あぶらな科野菜で発生する。
2 種子伝染および土壌伝染する。
3 かん水や降雨にともなう水滴の飛散によって病原菌が広がる。

防除方法

1 健全な種子を使用する。
2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
3 被害茎葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

・コサイド3000 M１【2000倍　－／－】
・コサイドDF M１【1000倍　－／－】
・コサイドボルドー M１【1000倍　－／－】
・Zボルドー M１【野菜類（除キャベツ）　500倍　－／－】

さび病

留意事項

1 ねぎ、たまねぎ、アスパラガス、しゅんぎく、みつば、いんげん、そらまめ、しそなどで発生する。
2 多湿時に発生しやすい。

防除方法

1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
2 連作を避ける。
3 施設栽培では、施設内が多湿とならないようにする。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
・カリグリーン ＮＣ【野菜類（除トマト、ミニトマト）　800倍　前日／－】
・ハーモメイト水溶剤 ＮＣ【800倍　前日／－】

白さび病

留意事項

1 あぶらな科野菜で発生する。
2 だいこんと他のあぶらな科野菜の間では伝染しない。
3 だいこんでは、青首部にわっか症が発生することが多い。

防除方法

1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
3 ほ場の排水をよくする。
4 密植を避け、通風をよくする。
5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
6 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
・ジーファイン水和剤 ＮＣ Ｍ１【野菜類（除なす）　1000倍　前日／－】

軟腐病

留意事項

1 たまねぎ、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、はくさい、だいこん、にんじん、レタス、ピーマン、かんしょ（じゃがいも）、さといもなど幅広い作物で発生する。
2 多湿条件で発生しやすい。また、降雨や台風のあとに広がりやすい。
3 害虫による食害跡や傷口から病原菌が侵入して発病する。

防除方法

1 ほ場の排水をよくする。
2 密植を避け、通風をよくする。
3 連作を避ける。
4 ヨトウムシ類などの食害昆虫の防除に努める。
5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
6 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
・コサイド3000 Ｍ１【2000倍　－／－】
・ジーファイン水和剤 ＮＣ Ｍ１【野菜類（除なす）　1000倍　前日／－】
・バイオキーパー水和剤 －（生）
【野菜類（除かぼちゃ、ズッキーニ）　500～2000倍　発病前～発病初期／－】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

灰色かび病

留意事項

1 いちご、きゅうり、なす、トマト、ピーマン、オクラ、レタス、たまねぎ、えんどうなどで発生する。
2 多湿条件で発生しやすい。
3 20℃前後が適温であり、施設栽培で発生が多い。
4 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
2 施設栽培では、施設内が多湿とならないようにする。
3 密植を避け、通風をよくする。
4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

・カリグリーン ＮＣ【野菜類（除トマト、ミニトマト）　800倍　前日／－】
・ハーモメイト水溶剤 ＮＣ【800倍　前日／－】
・エコショット ＢＭ２【1000～2000倍　前日／－】

斑点細菌病

留意事項

1 きゅうり、にがうりなどのうり科野菜、トマト、ピーマン、とうがらし類、レタスなどで発生する。
2 多湿条件で発生しやすく、露地栽培では降雨が続くと多発しやすい。

防除方法

1 うり科野菜の連作を避ける。
2 施設栽培では、施設内が多湿とならないようにする。
3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

・コサイド3000 Ｍ１【2000倍　－／－】
・クプロシールド Ｍ１【1000～2000倍　－／－】
・コサイドボルドー Ｍ１【1000倍　－／－】
・Zボルドー Ｍ１【野菜類（除キャベツ）　500倍　－／－】

黒斑細菌病

留意事項

1 あぶらな科野菜で発生する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 真夏と真冬を除いて1年中発生するが、温暖で降雨の多い春・秋に発生しやすい。

防除方法

1 健全な種子を使用する。
2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
3 収穫後の作物残さは適切に処分する。
4 密植を避け、通風をよくする。
5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
6 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

・Zボルドー Ｍ１【野菜類（除キャベツ）　500倍　－／－】

べと病

留意事項

1 幅広い作物で発生する。
2 比較的冷涼で、湿度の高い時期に発生が多い。

防除方法

1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
2 密植を避け、通風をよくする。
3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

・ドイツボルドーA Ｍ１【500～1000倍　－／－】
・Zボルドー Ｍ１【野菜類（除キャベツ）　500倍　－／－】
・クプロシールド Ｍ１【1000～2000倍　－／－】

アオムシ（モンシロチョウ）

留意事項

1 あぶらな科野菜で発生する。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ゼンターリ顆粒水和剤 １１Ａ
【野菜類（除はくさい、キャベツ）　1000～2000倍　発生初期（前日）／－】
・バシレックス水和剤 １１Ａ【1000～2000倍　発生初期（前日）／－】
・トアロー水和剤CT １１Ａ
【野菜類（除パセリ、えごま（葉））　1000～2000倍　発生初期（前日）／－】
・フローバックDF １１Ａ【1000～2000倍　発生初期（前日）／－】
・デルフィン顆粒水和剤 １１Ａ【1000倍　発生初期（前日）／－】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

アザミウマ類

留意事項

1 幅広い作物で発生する。
2 吸汁による被害に加え、ウイルス病を媒介する。
3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
2 収穫後の作物残さは適切に処分する。
3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
4 施設栽培では、栽培終了後にすべて閉め切り、蒸し込むことで殺虫する。
5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ボタニガードES ［ＵＮＦ］ 【1000倍　発生初期／－】
・スワルスキー ［－(生)］
【野菜類（露地栽培）　250～500ml／10a(約25000～50000頭)
放飼（放飼後の厳冬期の月平均気温が10℃を下回る地域）
発生直前～発生初期／－】
【野菜類（施設栽培）　250～500ml／10a(約25000～50000頭)　放飼
発生直前～発生初期／－】

アブラムシ類

留意事項

1 幅広い作物で発生する。
2 真夏と真冬を除いて1年中発生する。
3 多発すると、すす病が発生しやすくなる。
4 ウイルス病を媒介する。
5 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
2 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・サフオイル乳剤 ［－］
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト）　300～500倍　前日／－】
・エコピタ液剤 ［－］
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なす）　100倍　前日／－】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・サンクリスタル乳剤 ー
【野菜類（除なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎく）　300倍　前日／ー】
・粘着くん液剤 ー【100倍　前日／ー】
・ボタニガードES ＵＮＦ 【1000倍　発生初期／ー】

ウリノメイガ（ワタヘリクロノメイガ）

留意事項

1 うり科野菜で発生する。

防除方法

1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
2 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・デルフィン顆粒水和剤 １１Ａ【1000倍　発生初期（前日）／ー】
・ゼンターリ顆粒水和剤 １１Ａ【うり科野菜類　1000倍　発生初期（前日）／ー】
・チューンアップ顆粒水和剤 １１Ａ【3000倍　発生初期（前日）／ー】

オオタバコガ

留意事項

1 幅広い作物で発生する。

防除方法

1 若齢幼虫のうちに防除する。
2 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ゼンターリ顆粒水和剤 １１Ａ
【野菜類（除キャベツ、はくさい）　1000倍　発生初期（前日）／ー】
・デルフィン顆粒水和剤 １１Ａ【1000倍　発生初期（前日）／ー】
・フローバックDF １１Ａ【1000倍　発生初期（前日）／ー】

コナガ

留意事項

1 あぶらな科野菜で発生する。
2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ゼンターリ顆粒水和剤 １１Ａ
【野菜類（除キャベツ、はくさい）　1000～2000倍　発生初期（前日）／－】

・デルフィン顆粒水和剤 １１Ａ【1000倍　発生初期（前日）／－】

・バシレックス水和剤 １１Ａ【1000～2000倍　発生初期（前日）／－】

・フローバックDF １１Ａ【1000～2000倍　発生初期（前日）／－】

・ボタニガードES ＵＮＦ 【500倍　発生初期／－】

コナジラミ類

留意事項

1 幅広い作物で発生する。
2 野菜を加害するのはタバココナジラミとオンシツコナジラミの2種。
3 吸汁による被害に加え、ウイルス病を媒介する。
4 多発すると、すす病が発生しやすくなる。
5 施設栽培では周年で発生する。
6 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
2 収穫後の作物残さは適切に処分する。
3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
4 施設栽培では、栽培終了後にすべて閉め切り、蒸し込むことで殺虫する。
5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・サフオイル乳剤 －【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト）　300倍　前日／－】

・ムシラップ －【500倍　前日／－】

・オレート液剤 －【野菜類（除いちご）　100～300倍　発生初期～前日／－】

・ボタニガードES ＵＮＦ 【1000倍　発生初期／－】

・スワルスキー －(生)
【野菜類（施設栽培）　250～500ml／10a(約25000～50000頭)
発生直前～発生初期／－】

シロイチモジヨトウ

留意事項

1 ねぎ、しゅんぎく、あぶらな科野菜、まめ類などで発生する。
2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 卵塊や集団になっている幼虫を見つけたらすぐに取り除く。
2 若齢幼虫のうちに防除する。
3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
4 ねぎでは、葉の内部へ潜り込む前に防除する。
5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・デルフィン顆粒水和剤 １１Ａ【1000倍　発生初期（前日）／－】
・ゼンターリ顆粒水和剤 １１Ａ
【野菜類（除キャベツ、はくさい）　1000倍　発生初期（前日）／－】

タマナギンウワバ

留意事項

1 主にあぶらな科野菜で発生するが、幅広い作物で発生する。
2 幼虫は外葉の葉裏にいることが多い。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・バシレックス水和剤 １１Ａ【1000倍　発生初期（前日）／－】

チャノホコリダニ

留意事項

1 なす、いちご、うり科野菜、とうがらし類、ピーマン、しそなどで発生する。
2 施設栽培では周年で発生する。
3 乾燥条件で発生しやすい。
4 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
2 摘葉や摘芯後の残さはほ場外に持ち出し、適切に処分する。
3 薬剤は新梢部や葉裏を重点に散布する。
4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スワルスキー －(生)
【野菜類（施設栽培）　250～500ml／10a(約25000～50000頭)　放飼
発生直前～発生初期／－】
・サフオイル乳剤 －【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト）　300倍　前日／－】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ナメクジ類

留意事項

1 いちご、あぶらな科野菜、なす、とうがらし類などで発生する。
2 被害の周りには移動した痕跡として粘液が付着する。
3 スラゴは株元に散布し、植物体上にかからないように注意する。

防除方法

1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
2 密植を避け、通風をよくする。
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・クプロシールド Ｍ１【1000倍　発生前～発生初期／－】
・スラゴ －
【ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等
ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリゴマイマイの発生あるいは加害を受けた場所または株元に配置　1～5g／㎡　発生時／－】

ハスモンヨトウ

留意事項

1 幅広い作物で発生する。
2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 卵塊や集団になっている幼虫を見つけたらすぐに取り除く。
2 若齢幼虫のうちに防除する。
3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・バシレックス水和剤 １１Ａ【500倍　発生初期（前日）／－】
・デルフィン顆粒水和剤 １１Ａ【1000倍　発生初期（前日）／－】
・フローバックDF １１Ａ【1000倍　発生初期（前日）／－】
・ゼンターリ顆粒水和剤 １１Ａ
【野菜類（除キャベツ、はくさい）　1000倍　発生初期（前日）／－】

ハダニ類

留意事項

1 幅広い作物で発生する。
2 施設栽培では周年で発生する。
3 乾燥条件で発生しやすい。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

4 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 育苗時の防除を徹底する。
2 ほ場内や周辺の除草を行う。
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・サフオイル乳剤 ー
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト）　300～500倍　前日／ー】
・ムシラップ ー【500倍　前日／ー】
・エコピタ液剤 ー
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なす）　100倍　前日／ー】
・ボタニガードES ＵＮＦ 【1000倍　発生初期／ー】
・スパイカルEX ー(生)
【100～1250ml／10a(約2000～25000頭)　発生初期／ー】
【20～3000頭／100株　発生初期／ー】

ヨトウムシ

留意事項

1 幅広い作物で発生するが、主に葉菜類での発生が多い。
2 ヨトウガの幼虫を指す。
3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 卵塊や集団になっている幼虫を見つけたらすぐに取り除く。
2 若齢幼虫のうちに防除する。
3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・バシレックス水和剤 １１Ａ【500倍　発生初期（前日）／ー】
・エスマルクDF １１Ａ【1000倍　発生初期（前日）／ー】
・フローバックDF １１Ａ【1000倍　発生初期（前日）／ー】
・トアロー水和剤CT １１Ａ
【野菜類（除パセリ、えごま（葉））　500～1000倍　発生初期（前日）／ー】
・ゼンターリ顆粒水和剤 １１Ａ
【野菜類（除キャベツ、はくさい）　1000～2000倍　発生初期（前日）／ー】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

－ＭＥＭＯ－

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。